

# 美術部会 研究の構想（案）

平成28～30年度

## I 研究主題

美術の創造活動の喜びを味わい美術を愛好する心情を育て、心豊かな生活を創造していく意欲と態度を高める学習指導はどうあればよいか。

## II 主題設定の趣旨

これまで美術部会では、美術の創造活動の喜びを味わい美術を愛好する心情を育て、心豊かな生活を創造していく意欲と態度を高める学習活動に重点を置き研究を重ねてきた。平成27年度までの3年間は、「豊かな感性の育成」を目指し、「主題を生み出し、構想を練ること」、「主題を基に表現を工夫すること」、「主題や表現の工夫について感じ取り、話し合う鑑賞」について研究を重ね、その成果を積み上げてきた。

さて、学習指導要領における美術科の目標は三つの視点から捉えることができる。

### 1 美的、造形的表現・創造

美術の表現及び鑑賞の全過程を通して、創造活動の喜びや自己肯定感を感じることができるよう指導することが求められている。生徒一人一人が自分のしたいことを見付け、自分の心情や考えをイメージし、造形的に具体化できるようにしたり、よさや美しさを感じ取ることができるようになりするなど、生徒の実態を踏まえて、幅広く題材を考え、指導過程を工夫することが重要である。

### 2 文化・人間理解

よさや美しさなどを鑑賞する喜びを味わうようにするとともに、感じ取ったことや考えたことなどを自分の価値意識をもって批評し合うなどして、自分なりの意味や価値をつくりだすことができるように言語活動を適切に生かした指導が求められている。さらに、日本をはじめ、諸外国の美意識や創造的な精神を感じ取ることができる学習の中で、どのような人間を育てるのか明確にして指導していく必要がある。

### 3 心の教育

美術の活動は、創造的な体験の中で、感性を豊かにし、美しいものや優れたものに接して感動する、情感豊かな心をもつ生徒を育てるものである。美術の基礎的な能力を伸ばし、美意識を高めるには、他者を理解し認めながら、自分の中に新しい価値をつくりだし続ける意欲をもち、創造的に学習を進めることが重要である。

これらを踏まえた上で、継続してこの研究主題を設定し、平成28年度からの3年間は、「美術の基礎的な能力の育成を目指して」を副題に、主題解明に迫る。「美術の基礎的な能力」とは、関心や意欲などを基に、豊かに発想や構想をし、創造的な技能を働かせてつくりだす表現の能力と、造形的なよさや美しさ、作者の心情や意図と表現の工夫などを感じ取り味わうなどの鑑賞の能力である。それぞれの指導事項について、一人一人の生徒が自ら確実に身に付けていくことができるよう適切な指導をするとともに、一人一人に能力がどのように身に付いているのかを評価し指導の改善・工夫を行うことが大切である。「美術の基礎的な能力」は、基礎的・基本的な知識及び技能、思考力・判断力・表現力等を含むものである。その育成を目指し、生徒の主体的な学習活動の中でこれらの能力が関連しながら、十分かつ有効に働くようにするための方策について具体的に研究を進めることで、自分の中に新しい価値をつくり、豊かな人生を創造していく生徒の育成を目指していきたい。

## III 研究のねらいと内容

### 1 研究のねらい

美術の創造活動の喜びを味わい美術を愛好する心情を育て、心豊かな生活を創造していく意欲と態度を高める指導計画、指導方法、評価の工夫・改善に努める。28年度より3年間にわたり、美術の基礎的な能力の育成を目指すことで研究主題に迫りたい。

### 2 研究内容

- (1) 美術科の内容に関する研究
  - ・美術の創造活動の喜びを味わい美術を愛好する心情を育て、心豊かな生活の創造につながる指導内容の工夫
- (2) 指導計画・指導方法に関する研究
  - ・美術の創造活動の喜びを味わい美術を愛好する心情を育て、心豊かな生活の創造につながる指導計画の作成
  - ・生徒が主体的に取り組む指導方法の工夫
  - ・基礎的・基本的な内容や技能の定着を図る指導方法の工夫
- (3) 評価に関する研究
  - ・美術の創造活動の喜びを味わい美術を愛好する心情を育て、心豊かな生活の創造につながる評価の工夫
  - ・指導の改善に生かす評価の工夫

# 美術部会 平成30年度研究計画（案）

## I 研究主題

美術の創造活動の喜びを味わい美術を愛好する心情を育て、心豊かな生活を創造していく意欲と態度を高める学習指導はどうあればよいか。

－美術の基礎的な能力の育成を目指して－

## II 主題について

美術は、学習のねらいに基づき子供たちが様々な課題と道筋をたどりながら、自分としての答えを見つけていく教科である。表現や鑑賞の活動を通して、形や色彩などと関わり、感性を大切にして、身の回りにある美しいものに気付くことができる造形的な視点を身に付け、豊かに感じ取る力や創造性豊かに表現する力を高めることが必要である。そのためには、生徒に「何をさせるのか」ではなく、「何を身に付けさせるのか」「どのように学ばせるのか」ということを起点にした授業改善が必要である。もう一度指導の原点を見直し、美術を通して育成すべき資質や能力を明確にした上で、学習内容や指導と評価について研究を進めていきたい。

28年度より3か年計画で、美術で育てたい資質や能力を明確にした美術の基礎的な能力の育成を目指して研究を進めている。初年度は、生徒にどのような力を身に付けさせたいのかを明確にした上で、指導事項を整理した題材について研究した。2年度では、表現と鑑賞が相互に関連する授業実践を行い、様々な学習場面（導入～展開～まとめ）での効果的な手立てについて研究した。表現と鑑賞が有効に関連するには、それらの基盤となる〔共通事項〕の視点をもつことが重要である。例えば、発想や構想の段階でアイデアスケッチをグループで鑑賞し、形や色彩などを基に対象のイメージを捉えたり、それらがもたらす感情を意識したりしてアドバイスをし合う時間を設定する取組を行った。また、導入の段階で美術作品について調べ、さらに模写を通して鑑賞を深め表現に生かす取組を行った。このように、表現と鑑賞を相互に関連させることによって生徒の主題への意識を高め、表現意欲の向上につながったと考える。

本年度は、表現と鑑賞の相互の関連を図った実践を踏まえて、指導と評価の一体化を目指す研究を行う。今までの評価方法を見直すことにより、さらに充実した指導につながるように取り組むたい。指導と評価の一体化とは、評価の結果によって後の指導を改善し、さらに新しい指導の成果を再度評価するという、指導に生かす評価を充実させることである。すなわち、学習評価を通じて、学習指導の在り方を見直すことや個に応じた指導の充実を図ることといえる。指導と評価の一体化を図るためには、作品等の学習結果に対する総括的な評価のみならず、一人一人の学びの多様性に応じて、学習の過程における形成的な評価を行い、生徒の資質や能力がどのように伸びているかを評価し、日々の指導の改善に生かすことが必要である。例えば、自己評価カードやポートフォリオ等から生徒の思考の過程やどのような力が高まっているかを見取り、今後の指導に必要な手立てを講じるなどが考えられる。さらに、それらを通じて、生徒自身が学習の進捗や達成状況について把握できるようにしていくことも考えられる。このような指導と評価の一体化を図っていくことで、生徒一人一人に身に付けさせるべき資質や能力を確実に育む学習指導へとつなげていきたい。なお、学習評価を進めるに当たっては、指導の目標及び内容と対応した形で評価規準を設定することや、評価方法を工夫することも大切である。

取組を通して、主題解明とともに、生徒一人一人の学びと成長に寄り添った授業づくりを目指したい。

### Ⅲ 研究内容とその視点

#### 1 美術の表現及び鑑賞の内容に関する研究

- (1) 指導事項を整理するとともに、〔共通事項〕を踏まえて活動のねらいを明確にし、表現と鑑賞を効果的に関連させるための指導内容を工夫する。
  - ・活動のねらいを明確にした題材の設定
  - ・題材における〔共通事項〕の視点の明確化
  - ・活動のねらいに適した鑑賞の対象の選定
- (2) 表現の基礎的な能力を身に付けるための指導内容を工夫する。
  - ・感じ取ったことや考えたことなどを基に、発想や構想をする学習活動
  - ・目的や機能を考えた発想や構想をする学習活動
  - ・発想や構想したことなどを基に表現する技能を発揮する学習活動
- (3) 鑑賞の基礎的な能力を身に付けるための指導内容を工夫する。
  - ・造形的なよさや美しさ及び美術文化に関する鑑賞活動
  - ・生活を美しく豊かにする美術の働きに関する鑑賞活動
  - ・互いの見方や感じ方を認めたり深めたりする鑑賞活動
  - ・効果的な作品展示及び映像メディアの効果的な活用

#### 2 指導計画・指導方法に関する研究

- (1) 「A表現」及び「B鑑賞」の相互の関連を図った指導計画を工夫する。
  - ・指導事項に即して、活動のねらいを明確にし、表現と鑑賞の能力がともに高められる題材の指導計画の作成
  - ・生徒の実態を把握し、身に付けさせたい資質や能力及びそれらの成長を見越した3か年指導計画の作成
- (2) 〔共通事項〕を踏まえた指導計画を工夫する。
  - ・〔共通事項〕の視点を柱として表現と鑑賞の関連を図った指導計画の作成
  - ・〔共通事項〕の視点を踏まえた言語活動の在り方
- (3) 内容の「A表現」について、項目(1)及び(2)と、(3)を関連付けた指導方法を工夫する。
  - ・指導事項を明確にした指導方法の工夫
  - ・生徒に活動のねらいを理解させ、発想を刺激する導入の工夫
  - ・表現活動における発想や構想の能力と創造的な技能とを関連させながら、基礎的な能力を高める指導方法の工夫
- (4) 内容の「B鑑賞」の時間を各学年において適切に確保し、指導を工夫する。
  - ・知識を活用し、自分の中に作品に対する新しい価値をつくりだす指導方法の工夫
  - ・効果的なICT機器の活用や資料の収集・提示方法の工夫
  - ・作品について語り合ったり、批評し合ったりする授業形態の工夫

#### 3 評価に関する研究

- (1) 創造活動の喜びを味わい、美術を愛好する心情を育てる評価を工夫する。
  - ・自己の表現を振り返り、活動のねらいに基づき、成果と課題を見いだす自己評価
  - ・互いのよさを認め尊重し合ったり、互いの価値観を出し合ったりする相互評価
- (2) 指導の改善に生かす評価を工夫する。
  - ・一人一人の学習状況を把握し、その都度、個別指導に生かせる評価方法
  - ・題材ごとに育てたい資質や能力を明確にし、学習の成果が確認できる評価資料の累積と活用方法
- (3) 効率的、効果的な評価方法を工夫する。

### Ⅳ 研究方法

- 1 研究計画に基づいた実践を持ち寄って協議し、情報交換をして研究を進める。
- 2 研究の成果を日常の教育実践に生かすとともに、研究の継続と累積に努める。
- 3 中教研の組織を十分に生かす共同研究にし、会員の総意を結集した研究になるように努める。
- 4 小学校との情報交換に努め、互いに連携を深める。
- 5 実技研修会や研究会に積極的に参加するなど、教師としての資質や能力を高め、感性を磨くよう努める。

